

# 第3章 資料編

参加青年名簿  
事業評価アンケート  
研修日程  
実績



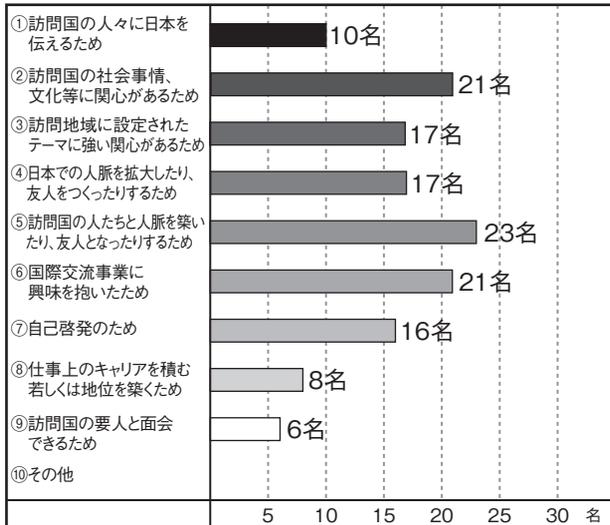
# 事業評価アンケート 令和元年度 国際社会青年育成事業(日本青年海外派遣)

アンケート対象者：団長、副団長を除く参加青年35名

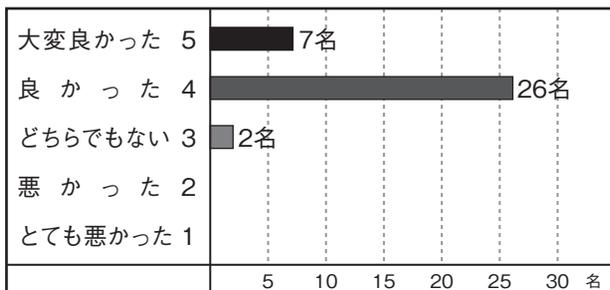
## 1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)



(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・派遣団には社会人もおり、普段の生活では会えないような人々に会うことができた。優秀な人たちと約1か月を過ごし、自分の足りない能力を実感することができた。自分の課題を克服する挑戦をしていきたいと強く思う。
- ・国際青年交流会議を含め、日常では絶対に得られないであろう機会を得ることができた。特に異なる文化背景を持つ外国人青年とのディスカッションが非常に刺激的であった。

### <メキシコ・ペルー>

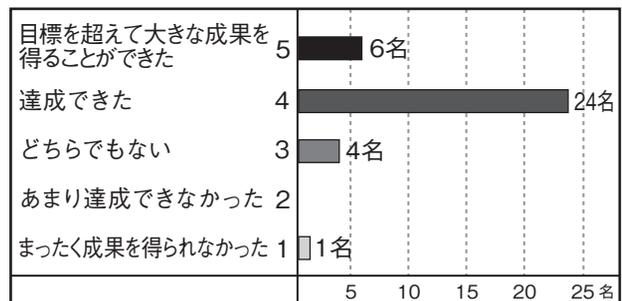
- ・海外青年との交流を通して学ぶことが多くあり、テーマであった災害対策についても深く考えることができ、実り多い事業だったと思う。
- ・2つの国を訪問することで、その国の文化の違いや治

安の状況などについて、比較をしながら肌で感じる事ができた。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・フィリピンではディスカッションに重きが置かれており、現地の国民青年委員会の方々の育成にかける意思を感じられた。
- ・国際交流の事業としては充実していたと思うが、設定されていたテーマについて深く学ぶためには、もっとディスカッションやリサーチにより多くの時間が割かれているとよかった。

(3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・世界に通じるリーダーシップを身につけること。海外青年と派遣団のメンバーとの一生涯の関係を築くこと。
- ・多様な価値観に触れることで判断力、決断力、意思決定力を養うこと。

### <メキシコ・ペルー>

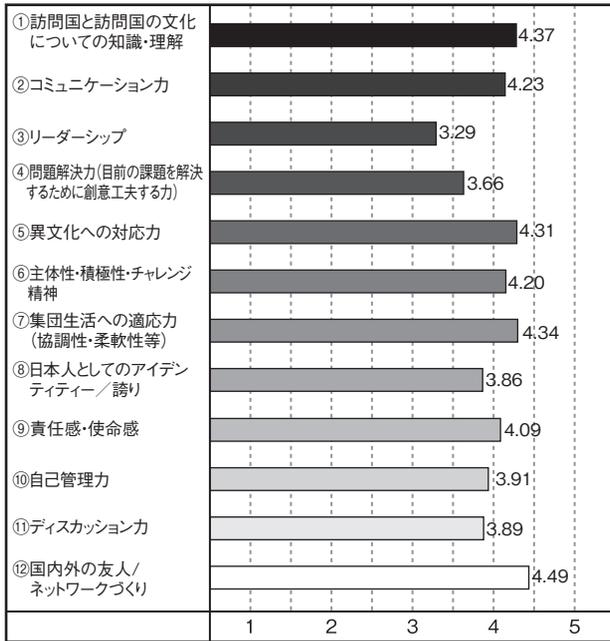
- ・メキシコ・ペルーの災害対策について学ぶとともに、自国での取り組みにおける改善点を見つけること。国際交流を通じて自己研鑽すること。
- ・ディスカッションに対する苦手意識を克服したい。派遣団の中で自分の得意なことを発見して、自分の役割を全うする。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・派遣国と日本との関係を深掘りし、労働社会においてどのような目標や課題があるのかを理解し考えを述べる。
- ・フィリピン、ベトナムから見た日本の印象や魅力を学ぶ。海外の人が日本で働くことに対してどう思うのかを知る。

(4) 以下の①～⑫までに掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の5～1のうち、該当すると思われるものを選択してください。

- 5：大きな効果があった
- 4：効果があった
- 3：どちらでもない
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった



※数値は参加青年35名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

#### <オーストリア・リトアニア>

- ・キャリア形成に対する新たな目標
- ・異文化理解の重要性の再確認

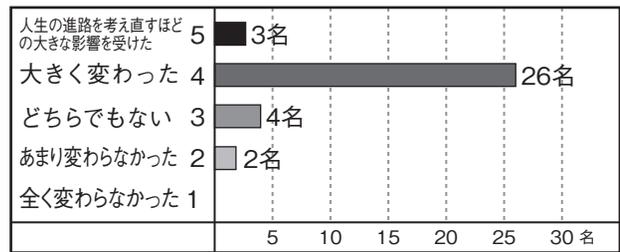
#### <メキシコ・ペルー>

- ・フォロワーシップの重要性
- ・自分に自信を持つこと

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・ファシリテーションの能力

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



#### <オーストリア・リトアニア>

- ・自分のアイデンティティーを自由に社会の中で体現しようとしている現地青年をみて、自分もやりたいことに挑戦しようと思った。
- ・日本人としてのアイデンティティーについて再考する機会となった。

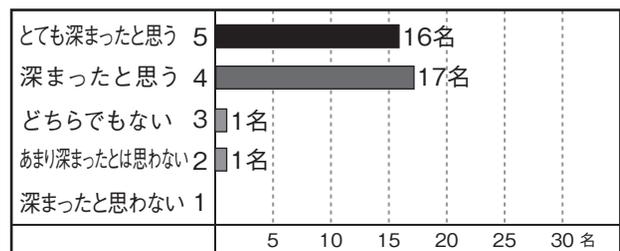
#### <メキシコ・ペルー>

- ・広い視野をもって、何事にも主体的に取り組むことで得られるものが何倍にも増えることを改めて感じた。今後も何事にも挑戦する気持ちを忘れずにいたい。
- ・国際協力に貢献できる仕事に就きたいと思うようになった。

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・このまま日本の中だけで生きていけないと思ったし、外に出て自分から経験を積んでいかなければならないと思った。
- ・現地青年の社会課題への関心の高さやリーダーシップには常に圧倒され、この派遣を通して国や世界をよくするために働きたいという思いを再認識するとともに、新たなことに挑戦し、努力していきたいと思った。

(7) この事業を通じて、あなたと訪問国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



#### <オーストリア・リトアニア>

- ・歴史的な背景を理解するためのプログラムがあったので、さまざまな視点を持って理解を心がけることができた。

- ・理解を深めることはできたが、もっと現地青年と長い時間を過ごしたかった。

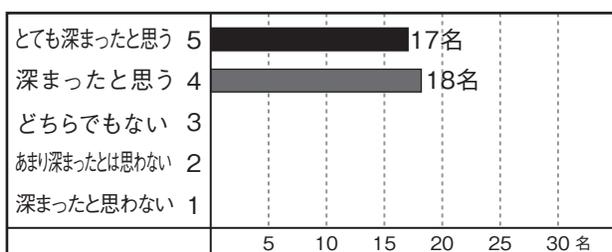
#### <メキシコ・ペルー>

- ・お互いの国を訪ねあうプログラムなので、互いの文化を知ることができる点よかった。
- ・たくさんの友人ができたが、言葉の壁もあったので、事前学習を含めてもっとできることがあったと思う。

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・一緒に話し、意見を交換しあう機会があった。

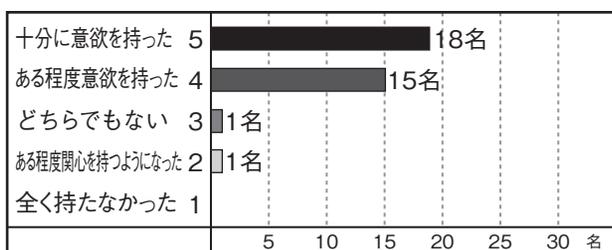
(8)この事業を通じて、あなたと訪問国の人々との友好が深まったと思いますか。



#### <メキシコ・ペルー>

- ・ホームステイで手厚い歓迎を受け、海外に友人が存在することの素晴らしさを実感した。
- ・多くの現地青年と幅広い分野の話ができたのがよかった。

(9)事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



#### <メキシコ・ペルー>

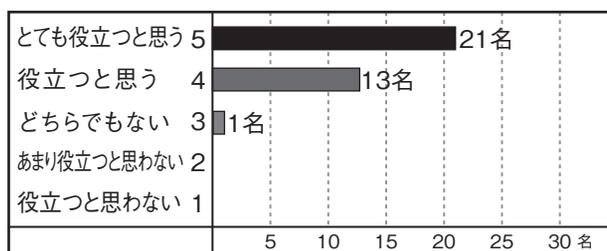
- ・事後活動も含めて、自分にできることを活動に積極的につなげていきたい。
- ・この事業で学んだことを活かして、日本の災害対策に貢献したいと思った。

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・貧富の差を解消する大きな手立てが存在しないことがよく分かったので、経済格差・教育格差を解消す

るために、英語を貧困層や地方の子供に教える草の根活動を行いたい。

(10)－1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



#### <オーストリア・リトアニア>

- ・自分の未熟さに気づくことも多かったので、勉学に対する意欲が上がった。

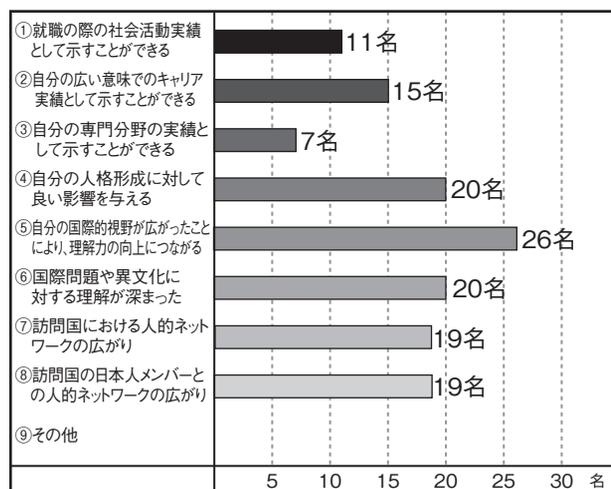
#### <メキシコ・ペルー>

- ・なかなか行くことの難しい国に行けたことは大きかった。

#### <フィリピン・ベトナム>

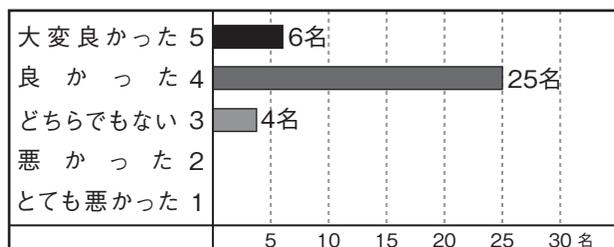
- ・英語力を高めたいと思うきっかけになった。

(10)－2 上記において、5～4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)



## 2. 訪問国活動について

(1) 訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・全体的にとってもよかったが、美術館などもっとその国の文化に触れることのできる時間が多ければよかった。
- ・予定変更が生じて、行けなくなった場所があったのは残念だった。

### <メキシコ・ペルー>

- ・訪問国の現状を直接に体験することができてよかった。
- ・大変貴重な体験であったがスケジュールがタイトだったので、1か国をじっくり見ることができればよかったのではないと思う。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・希望したが訪問できなかったところも多いが、現地の方々との文化交流を通じて、訪問国の理解が深まった。
- ・現地青年と意見交換を行い、国際交流を楽しむことができた。

(2) 訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

### <オーストリア・リトアニア>

- ・訪問やディスカッションを通じて、それぞれの国で政治や文化についてどのように考えているかを具体的に学ぶことができた。
- ・リトアニアの歴史的背景と若者の意欲の高さ。

### <メキシコ・ペルー>

- ・国民の生活における政治の重要性と貧困が引き起こす諸問題に気づかされた。
- ・災害対策について、政府や研究機関が持っている高い技術と、国民の意識の間に大きな差があること。この乖離は、ここまで大きくないにしても、日本でもあるのではないかと。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・同じような課題であっても、国によってその背景や文化の違いがあり、価値観は多様で、共通化は簡単ではないと思った。また、国際交流においては、自分の国のことをよく理解しておくべきだということが分かった。
- ・それぞれの国の力を入れている政策とその背景を理解することができた。

(3) 訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

### <オーストリア・リトアニア>

- ・KGB博物館

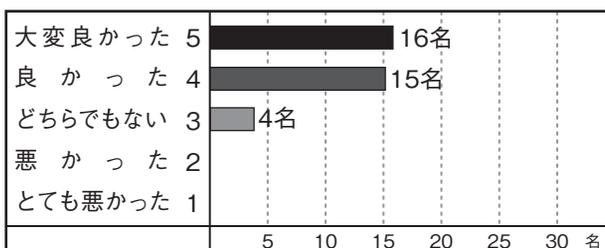
### <メキシコ・ペルー>

- ・ペルーで山の斜面に粗末な家がぎっしりと並んでいる風景を見て、貧困問題を肌で感じたこと。
- ・ホームステイ

### <フィリピン・ベトナム>

- ・若者の支援体制の手厚さと若者の向上心の高さ
- ・ホームステイで現地の人々の考え方を理解する機会を得られたこと。

(4) 地元青年との交流をどのように評価しますか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・リトアニアでもっと地元青年と関わりを持てればよかった。

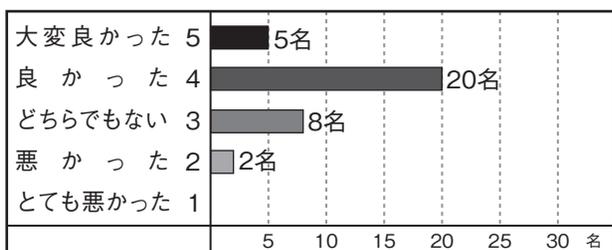
### <メキシコ・ペルー>

- ・メキシコでは現地青年と施設訪問や観光もできたので、より密接なコミュニケーションをとることができてよかった。
- ・派遣青年だけでなく、現地の大学生など、より多様な若者とディスカッションができる機会があればよかった。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・現地青年との交流は非常に有意義であったが、場所によっては言葉の問題から十分なコミュニケーションできないこともあり、残念だった。
- ・ただ学校を見学するだけのプログラムもあったので、もっと現地の学生と交流を深めたかった。

(5) 施設訪問をどのように評価しますか。特に印象に残った訪問先を挙げ、理由をお答えください。



### <オーストリア・リトアニア>

[ユネスコ・リトアニア国家委員会]

- ・お話を聞いて、将来の目標を具体的に描くきっかけになった。

[マウトハウゼン強制収容所]

- ・オーストリアの歴史の負の部分を知ることができた。
- ・博物館スタッフのプレゼンが理論的でとてもよかった。

[リトアニア青年協議会]

- ・現地青年の政治に対する強い意識を感じ、日本に帰って何ができるかを考えるきっかけになった。

### <メキシコ・ペルー>

[メキシコ青年庁]

- ・若者が積極的にリーダーシップを発揮している様子が印象的だった。

[ペルー日系人協会]

- ・日本人移民がどんな困難を乗り越えたか、どのようにコミュニティを築いたかを歴史館で学んだ。この学びは南米独特なものだと思う。
- ・日本の文化を一定保ちながら、ペルーの社会に溶け込み、ペルー人として生きている日系人に感銘を受けた。

[ペルー国家防災庁：INDECI]

- ・ペルーの防災教育の現状、災害対策における国際協力関係性を学ぶことができた。
- ・防災教育のためのさまざまな設備があり、日本の防災教育にも参考となるものが多くあった。

[JICAペルー事務所]

- ・職員から直接に話を聞き、JICAの活動を具体的に知ることができた。

- ・JICAが対象国を「カウンターパート」として、その国をよりよくするよう支援を行うというスタンスに感銘を受けた。

### <フィリピン・ベトナム>

[ガワッド・カリंगा]

- ・貧困問題や教育問題の解消のための活動が印象的だった。
- ・貧困状態にある人々がコミュニティを作って社会参画を目指している支援方法が興味深い。

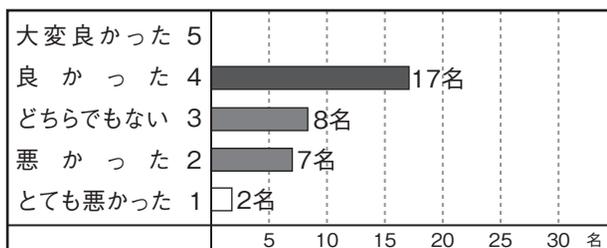
[ベトナム労働傷病兵社会省]

- ・キャリア形成について日本とは異なる考えを学ぶことができた。
- ・国によって労働者の保護・育成に関する政策が異なることは興味深かった。

[ハノイ高等技術訓練学校・フート省職業短期大学・労働社会大学]

- ・日本の学生とベトナムの学生の学びに対する価値観の違いを痛感した。
- ・学生たちの日本に対する高い期待と、日本で学びたいという熱い意欲を感じた。

(6) ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・様々な意見がある中でしっかり話し合えてよかった。ただ、集中力を維持するのは難しいので、工夫が必要だと思う。
- ・リトアニア青年の高いディスカッション力に圧倒される場所があった。

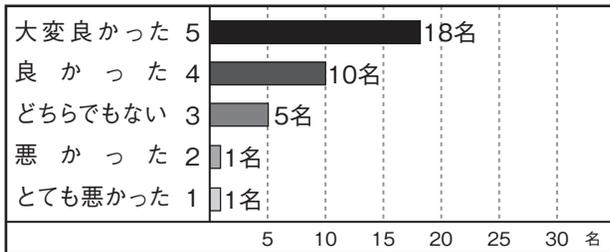
### <メキシコ・ペルー>

- ・多くの場面で専門家の話を聞き、質問できたのはよかったが、ディスカッションといえるほどの深まりを持つことはできなかった。
- ・現地青年や地域住民とディスカッションできる時間をもっと設けてほしかった。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・フィリピン青年とのディスカッションで、それぞれの価値観の違いを理解できた。
- ・たくさん話すことはできたが派遣テーマとディスカッションのテーマが一致しておらず、内容を深めることができなかった。もう少しテーマを絞って具体的なアウトプットができるようになっているとよかったと思う。

(7) ホームステイをどのように評価しますか。



### <オーストリア・リトアニア>

- ・オーストリアについて普通の観光旅行では知れないことを知ることができた。友人もできて、本当に楽しかった。

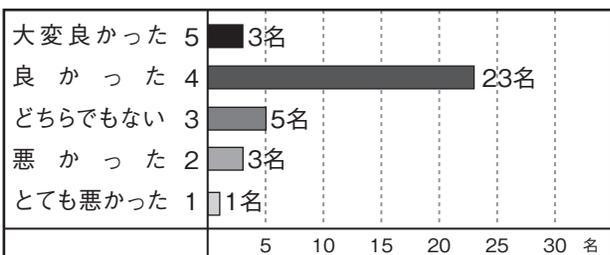
### <メキシコ・ペルー>

- ・日系人家庭にホームステイしたが、日本とペルーの文化の共存がとても面白く貴重な体験ができた。大家族で温かく迎え入れてくれ、さまざまな文化体を経験することができた。
- ・ホストシスターがペルーの貧困地域における教育ボランティアに参加していて、私も参加することができた。貴重な体験ができてよかった。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・ホストファミリーは大変優しく、ベトナム人の日常生活を体験させてくれた。
- ・ホームステイ先の住居環境の差が団員によってとても大きく、安全面、衛生面などで不安なケースがあった。

## 3. 国際青年交流会議 (10/6~9) について



### <オーストリア・リトアニア>

- ・ゴール設定がわかりにくくもっと時間がほしいと思ったが、楽しかった。
- ・テーマ別視察の訪問先での学びが少なかった。

### <メキシコ・ペルー>

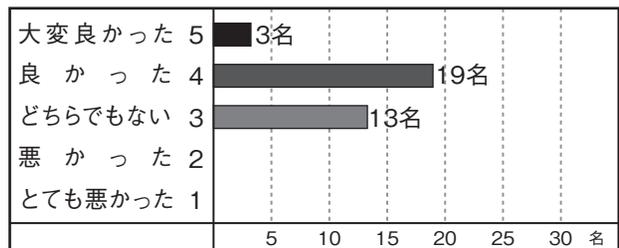
- ・外国 (特にヨーロッパ) 青年のディスカッション力、プレゼンテーション力が高く、圧倒される場面が多かった。
- ・外国参加青年は専門性を持った人が多かったが、そのアドバンテージを活かすことができなかったと思う。

### <フィリピン・ベトナム>

- ・初めて複数の国の人が混じって行うディスカッションを体験できてよかった。自分の意見をなるべく発信するように努力した。
- ・自分が訪れていない国の人も話ができただけよかった。ただ、時間が十分になかったので、議論を深めるといふより、プレゼンテーションのために話し合う感じになったのは残念だった。

## 4. 事前・出発前・帰国後研修について

(1) 研修内容をどのように評価しますか。



### <よかったところ>

- ・多くの団研修があり、団員との仲を深めることができた。なぜ参加するのか、参加してどうだったかということのを他のメンバーと話し合えたのはよかった。
- ・アルムナイ (既参加者) がそばにいてくれたのは心強かった。
- ・国際青年交流会議がとても楽しく、私にとって価値のある濃い時間となった。
- ・事前に顔を合わせ、準備を進めたことは、研修全体の質を上げることに繋がったと思う。

### <改善すべきところ>

- ・事前研修でテーマに沿った国内施設訪問などを組み込んでほしかった。

- ・派遣スケジュールを含めて、現地で必要な情報を事前に得ることができなかった。
- ・リーダーシップに関する研修を組み込んでほしい。

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

#### <オーストリア・リトアニア>

- ・出会った青年とのつながりを維持し、今後の自分の研究に生かしていきたい。
- ・この事業を通じて得た人脈、ネットワークを生かして社会活動を進めていきたい。

#### <メキシコ・ペルー>

- ・今回の学びを生かして、今住んでいる大学の国際寮で留学生に対する防災教育、防災に関する啓発を進めている。
- ・国際交流に貢献したいという思いが芽生えた。メキシコやペルーに友人ができたことで両国への関心が増し、社会問題の解決につながるような仕事をしたいと思うようになった。

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・外国青年との交流やディスカッションで自分の弱みを再確認した。この弱みを強みに変えられるように意識しながら生活していきたい。
- ・この事業で得た新たな価値観をキャリア形成に生かしていきたいと思う。訪問国で見た格差問題に対して、どうやって自分の力で貢献できるか、そのために今後の自分は何をすべきなのかをもう一度模索していきたいと思う。

(2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

#### <オーストリア・リトアニア>

- ・貴重な経験ができました。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・事前研修から出発研修までの間に、十分な準備をする時間が取れなかった。応募時点から事前学習の概要を知ることができたら、スケジュール確保ができたのではないと思う。

#### <メキシコ・ペルー>

- ・すばらしい事業に参加することができて、心から感謝している。
- ・訪問先ではかなり専門的な話を聞くことが多かったが、その分野の基本的情報や日本での状況を知らず、十分な比較もできずモヤモヤを感じることもあった。テーマに沿った事前研修ができるようにするとか、テーマにふさわしいメンバー選定を行うといったことが必要ではないか。また、幅広い分野からの多くの応募者があることも大事だと思うので、事業の存在を伝えることに努めたい。

#### <フィリピン・ベトナム>

- ・この事業に参加することができて大変うれしく思う。改善が必要だと思う点もあるが、全体を振り返ると、新たな人との出会いがあり、日本には感じるここのきないような疑問点を見出すことができた。この経験は今後の私の人生により影響を与えると思う。多くの若者が同じように感じるができるよう、プログラムを改善しながら継続してほしい。
- ・たくさんのことを学び、貴重な体験をすることができ、休学して参加するだけの価値はあったと思う。ただ、他の青年国際交流事業との関係で考えると、この事業はより専門的でアカデミックなものにするのがよいのではないと思う。日本の優秀な若者を海外に送り、最大限学びを得られるような機会を提供し続けてほしい。